

子どもの生活を見直そう！

～将来にわたって「生きる力」を育むために～

7月1日号の広報でお知らせしたように、現在、市内の全小学校では、音読や百ます計算をはじめとする「モジュール授業（反復授業）」に児童が一生懸命取り組んでいます。その一方で、子どもの努力を实らせ、その能力を十分に発揮させるためには、家庭での生活改善が欠かせません。

このたび、市内の全小学生を対象に行った「生活実態アンケート」と、2年生以上を対象に行った知能・学力検査の結果の取りまとめを行ったところ、生活習慣が子どもの学力と密接な関係があることがわかりました。ここでは、特に影響が大きかったものについてお知らせします。

【問い合わせ先】教育政策室 ☎82-1208

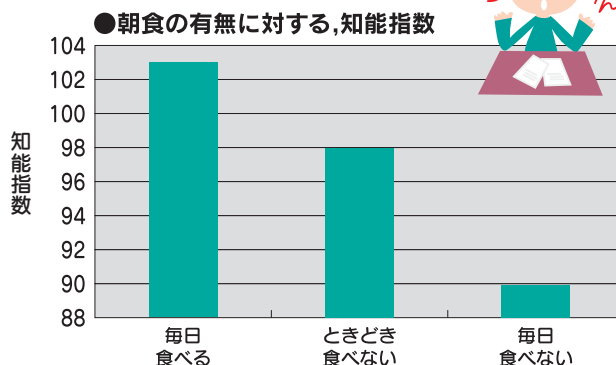
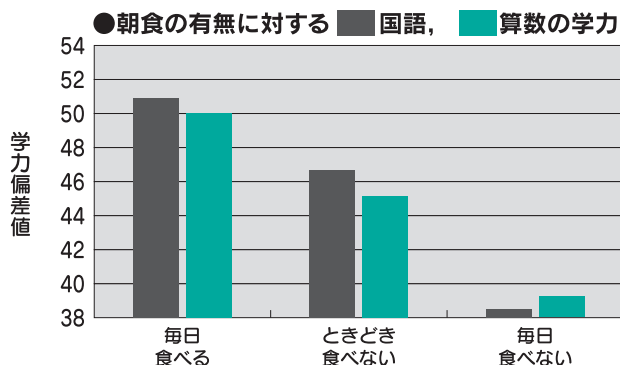
生活習慣が子どもをかえる

「生活実態アンケート」では、就寝時間・朝食の有無とメニュー・家での勉強時間・テレビ視聴時間・ゲーム時間・学校以外での読書冊数・勉強は大切と思うか・勉強は楽しいか、といった様々な項目について調査しました。ここでは、あわせて実施した知能・学力検査の結果に大きな影響を与えたと考えられる3つの項目をとりあげて、「生活習慣」と「学力偏差値」※1・「知能指数」※2との関係、さらには「新成就値」※3という概念を使って、「生活習慣」が子どもの「能力の発揮」に与える影響についてご紹介します。

- (※1)「学力偏差値」とは成績の点数のことで、50点が平均です。
- (※2)「知能指数」(IQ)は、ここでは100を平均としています。
- (※3)「新成就値」とは、「知能指数」から学力期待値を推定し、その期待値を基準(期待値を0とします)に、実際の学力検査の結果を評価するものです。すなわちこの値がプラスであれば能力は十分に発揮されたことになり、マイナスであれば本来の力が発揮されていないということになります。

朝食の有無

朝ごはんは元気のみなもと！



朝食を食べない(ときどきも含む)子どもは、学力(成績)・知能指数が低くなる傾向にあります。毎日朝食を食べることの大切さを示す結果となりました。